

# 「攻めのイチゴ生産実証」<sup>\*</sup>現地の取り組み紹介

※農林水産省予算により国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センターが実施する「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業(うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立)」にて実証  
実証主体:「攻めのイチゴ生産実証コンソーシアム(代表:山口県農林総合技術センター)」

## ～イチゴ高位生産能力を活かし6次産業化を展開～

瀬戸内 Jam's Garden (山口県周防大島町)



**Profile**  
 所在: 山口県大島郡周防大島町 日前331-8  
 代表取締役: 松嶋匡史  
 設立2003年11月  
 雇用数: 26人 畑: 約65a  
 資本金: 500万円  
 ジャム生産: 年間約10万本  
 販路: 直営店約4割 卸約4割 通販約2割

### 1. (株)瀬戸内ジャムズガーデンが展開する6次産業化

#### ・コンセプト

目指すのは**この土地でしかできないジャム作り**。この土地と作り手の魂が感じられるジャムづくり。さらにこの島と人々とのつながりから生まれるジャムをその場で味わってもらい、そこにこの島の土の味が宿っていることを知ってもらう。

#### ・これまでの歩み

自社および地元農家の生産物を活用した商品づくりと観光農園の運営を実践している。2007年に周防大島町にターン起業して以来、本物志向のジャムづくりを通じ、地域と共存共栄する事業を展開している。その取り組みは、地域資源の掘り起こしから、島全体を巻き込んだ連携・6次産業化による島おこしへと拡大中である。

- 2011年10月: 農林水産省「6次産業化先進事例【100事例】(平成23年4月)」に選定
- 2013年10月: 農林水産省六次産業化・地産地消法に基づく事業計画の認定取得
- 2013年12月: 経済産業省「がんばる中小企業300社」に選定
- 2014年11月: フード・アクション・ニッポン アワード2014受賞

### 2. イチゴの高位生産技術の導入

#### ・簡易低コスト型のイチゴ高位生産施設

##### ①ダブルアーチ構造ハウス(リノベーション施工)

低コストに耐候性と採光性を向上

##### ②多植栽培システム「スライドらくラック」

一般高設栽培に対し栽植密度を約1.8倍に向上

栽培施設見学会開催  
平成26年8月22日



#### ・環境制御技術によるイチゴの省力・高効率生産技術

##### ①かおり野(多収・極早生)

多植栽培システムにおける未分化子苗直接定植により、**8月上旬定植—10月下旬より翌年7月まで収穫—10t/10a以上となる高位生産**を実証した(平成26年作)。

##### ②よつぼし(種子繁殖型・早生・長日反応性)

**7月上旬に72穴セル苗を直接定植**し、多植栽培システム「スライドらくラック」の**クラウン部局所温度制御**と電照での**本ぽ長日処理**を組み合わせた栽培を実証中。10月14日で開花株率は約9割(平成28年7月まで収穫)。



「よつぼし」72穴セル苗の定植

親株・育苗管理の省略と定植作業の効率化を実現



栽培状況: 上から



「スライドらくラック」のハウス内通路は1本となる。

栽培状況: 下から

### 3. イチゴの6次産業化取り組み展開

#### ・秋の味覚としての「いちご」を提案

「秋採りいちご」として10月の秋果実(青レモン、リンゴ、すだち)との混成ジャムを紹介し、付加価値を高める販売に成功した。

#### ・品種毎の果実特性を活かした新たな加工品を11種類以上開発



秋採り島いちごのバニラ仕立てジャム



いちご青果販売



生いちごショコラ



タルトいちご島



完熟いちごと島ゆずの瀬戸内ルーージュ(ソース)



ドルチェアイス(完熟いちごレモン)

#### ジャム屋のアイスが誕生

プレミアムジャム「完熟 母と暮らすのルーージュ」を原料に使用し、あまのつぶ(下層)とジャム(上層)の2層構造になっています。あっさりしているから果実本来の味わいがそのまま楽しめる宝石のようなジャムアイスの誕生です!

※本入りセットで販売!夏の贈答品にお勧めです。